

憲教類典

三ノ二十 御上洛  
三ノ廿一 上 覽  
三ノ廿二 御 能  
三ノ廿三 御 鷹  
三ノ廿四 御 靈屋

3係7

2770

R4





明 刀 保 3  
2770  
24

三ノ二十  
御上洛

憲教類典



三之二十

三之二十



# 御上洛

*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*







亦紙事

一 法事 之字以人所不省下知更

一 法事 篇之紙字行人之

可名事

一 石可押置根籍事

一 事後之段元以才了為一紙更

一 之字下了為門系事

附此之字一事案合之段而

信止之字



右傳之著於遠中者之建一處及料之

也

長十年正月三日

元和之丁巳年六月廿六日

條

一 之及所依之所能通之

一 所之之字之字在之除之令依事

事



一 宣花口編上事一 示外也所成  
難ある事其書以記以之と云う  
しそ身の中事ハ句編上事  
あつて印あつて出し着於遠方

一 族の事由事支

一 今更に中一人也一 後之修  
山平自然旅中事と云  
御以後之及以法事

一 法中法事一 刻馬より下

一 法事より事とて色事一 羊の遠方  
しるる料所事及

一 御着身丸一 時尚書之示不之  
半より遠方一 事と料所事及  
一 以同中一 而し英事以法事  
一 之候ハ事及 中法事  
者中理とつ事大以法事



不丁遠少り事

一 了上之際お石列のわちこの事  
之度の人皆之を去る人あり候に  
去人おれを本外洋等より

列事

一 騎馬の中人系事して成り  
入但力 申用事あり  
とつる各別事

一 以依之時狼籍を以て候事  
此四罪之人とておる事

一 船民は之を去る事あり候に  
事と定てお法 度中事

一 以依之時馬の以て候事  
寸毎の事

一 法度是入交之事あり候に

一 於所無事候に候事  
多し事あり候に

一 小石所納るる在り方へ候事



一 御之病之時於所中  
母之記事

右條之書有旅旅之  
料細事を記す  
去書以て記す  
後を人遊す  
子及者之書

元和三年六月廿六日

元和三年六月廿六日

御之病之時於所中

母之記事

一 今之病之時於所中  
以牙者其後を  
去書以て記す  
一 唯此は編照  
何れし子細  
於此戸及由  
法若遠紀



二石編理非双方より可謀伐  
し旅殿中令出舞去とも  
くくくくくくくくくくくくく  
及中子知わくくくくくくく  
合去河法し知くくくくくく  
く隈少城合少年くくくくく  
合少河館兼之所中くくくく  
白蛇上生  
出早く時去るくくくくくく

外書者くくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくく  
書以照くくくくくくくく  
何生を全くくくくくくく  
くく火人本くくくくくく  
供在中人出くくくくくく  
但主料くくくくくくく  
氏担江くくくくくくく  
既生くくくくくくくくく



す毎一私一に於て  
可なり曲事

休書不系一少事一得易一  
しとのけ一なる事

殿中一毒一に於て戸不定  
くきなる事

みこ一に於て曲事

百半法一及一に於て以て  
同け一少事法事

同け一少事法事

一に於て遠少一に於て  
一に於て一に於て

お法一上法科一に於て  
死罪或一に於て

一に於て一に於て

一に於て一に於て

一に於て遠少一に於て  
一に於て一に於て

一に於て一に於て

一に於て一に於て

一に於て一に於て



後り小あやうしつふさつお曲事

事  
有依何年心法書々々味し候  
望信心し事

事  
万年付有行候し事つお曲事

事  
少波止坂おあひ下し不混難候お  
たん以中あ紙し少何結い左  
方とをます毎く但山坂ら

事  
山し方へはさうしあしは不  
しあしとさしつ小まのせ不  
較混難つあ色し探し少まて  
有也年又

事  
押書お押書人根籍すくしん  
も遠程し少まいこま場お  
あわく可なりあ流し  
年しより人いのおまを  
事



一 櫻子牙伐拂竹木半

附作毛し場に毛を敷き  
毎くし合道少月去可

為曲半支

一 地重くし後作堅信の半

休有し時あり結成家く除き

を除く信有遠少月去可

了水曲半支

一 又の曲半支

あまのしりしき小旗も入少

了水曲半支

附作毛し場に毛を敷き

毎くし合道少月去可

為曲半支

あまのしりしき小旗も入少

了水曲半支

為曲半支

あまのしりしき小旗も入少







わがこころを  
うつする年

一 牙なりうらふ紀よるものあり  
まことの年をさす

一 活の年岩髄の下の外何あり  
もまら相枝の時をさす人との不  
較ら又無積をさす一なる年候

一 活の中をさす也

佛意の本質をさす一活の年の  
主より形をさすは之なり  
右のものを世をさす也

元和の年六月廿日

元和の年六月廿日

一 活の年岩髄の下の外何あり  
もまら相枝の時をさす人との不  
較ら又無積をさす一なる年候  
一 活の中をさす也  
佛意の本質をさす一活の年の  
主より形をさすは之なり  
右のものを世をさす也



主之旨法着しん 下中納し次録  
人自之し新を焼り付てハ大  
し中納し下中納し之旨  
作出し料定之石院取之旨中付  
い之し清之

安慶對之旨

古井大炊氏

由多上取女

河井雅重氏

元和九年六月廿日

右主元和三年己年

御上之旨し付之旨實之旨也

右主之旨書之旨也 御上之旨也

之旨し之旨し之旨也 御上之旨也

事之類從之旨也 御上之旨也

元和九年五月十日

條

一 今之旨し之旨し之旨也 御上之旨也

之旨し之旨し之旨也 御上之旨也



下世子年

一 喧嘩其以海出年、其外、其後、  
雖、為、其、年、者、以、其、以、其、知、し  
て、其、年、者、其、海、出、下、人、年、者、

一 幼、不、其、年、者、

一 之、反、以、其、中、人、也、一、其、年、者、  
其、年、者、其、年、者、其、年、者、  
還、其、年、者、其、年、者、

一 其、年、者、其、年、者、其、年、者、

一 其、年、者、其、年、者、其、年、者、

一 其、年、者、其、年、者、其、年、者、

一 其、年、者、其、年、者、其、年、者、

一 其、年、者、

一 其、年、者、其、年、者、其、年、者、

一 其、年、者、其、年、者、其、年、者、

一 其、年、者、其、年、者、其、年、者、

一 其、年、者、







丁酉年

右之級差於五月... 流罷了... 於今日... 出... 狀... 也

元和九年五月十日

元和九年五月十日

降

一 以... 事... 年... 改... 易...

事

一 治... 中... 於... 事... 一... 以... 著... 改... 以... 治...

事

一 治... 中... 於... 事... 一... 以... 著... 改... 以... 治...

一 治... 中... 於... 事... 一... 以... 著... 改... 以... 治...

事

一 治... 中... 於... 事... 一... 以... 著... 改... 以... 治...



浪子のそ収

但心之ハ苦シクハ事

一 以着し不并以事居るに事  
しし振也  
浪子のそ収

一 以信し時縁事  
介入之名發如入交ハ事之料浪子  
そ収

一 以信し時縁事  
介入之名發如入交ハ事之料浪子  
そ収

一 以信し時縁事  
介入之名發如入交ハ事之料浪子  
そ収

一 不依何事  
候了お曲事

一 以信し時縁事  
介入之名發如入交ハ事之料浪子  
そ収

一 以信し時縁事  
介入之名發如入交ハ事之料浪子  
そ収



竹の 侍馬下<sup>り</sup> 過料<sup>り</sup> 元

膳<sup>り</sup> 所<sup>り</sup> 除<sup>り</sup> 料<sup>り</sup> 八<sup>分</sup> 限<sup>り</sup> 子<sup>り</sup>

扱

喧嘩<sup>り</sup> 上<sup>り</sup> 偏<sup>り</sup> 火<sup>り</sup> 半<sup>り</sup> 付<sup>り</sup> 下<sup>り</sup> 急<sup>り</sup> 出<sup>り</sup> 合

去<sup>り</sup> 半<sup>り</sup>

法<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 所<sup>り</sup> 付<sup>り</sup> 書<sup>り</sup> 不<sup>り</sup> 押<sup>り</sup> 所<sup>り</sup> 法

之<sup>り</sup> 仁<sup>り</sup> 事<sup>り</sup> 送<sup>り</sup> 料<sup>り</sup> 法<sup>り</sup> 子<sup>り</sup> 扱

法<sup>り</sup> 中<sup>り</sup> 御<sup>り</sup> 名<sup>り</sup> 付<sup>り</sup> 時<sup>り</sup> 馬<sup>り</sup> 下<sup>り</sup> 付<sup>り</sup> 扱

以<sup>り</sup> 後<sup>り</sup> 決<sup>り</sup> 身<sup>り</sup> 遠<sup>り</sup> 事<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 料<sup>り</sup>

狼<sup>り</sup> 子<sup>り</sup> 扱

一<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 下<sup>り</sup> 深<sup>り</sup> 五<sup>り</sup> 引<sup>り</sup> 金<sup>り</sup> 行<sup>り</sup> 下<sup>り</sup> 并<sup>り</sup> 法

一<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 下<sup>り</sup> 付<sup>り</sup> 上<sup>り</sup> 京<sup>り</sup> 参<sup>り</sup> 入<sup>り</sup> 次<sup>り</sup> 中<sup>り</sup> 十<sup>り</sup> 以<sup>り</sup> 定

一<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 下<sup>り</sup> 付<sup>り</sup> 事<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 料<sup>り</sup> 限

一<sup>り</sup> 以<sup>り</sup> 法<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 時<sup>り</sup> 狼<sup>り</sup> 籍<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 半<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 身<sup>り</sup> 力<sup>り</sup> 死

一<sup>り</sup> 罪<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 入<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 料<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 限<sup>り</sup> 子<sup>り</sup> 扱

一<sup>り</sup> 以<sup>り</sup> 法<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 付<sup>り</sup> 馬<sup>り</sup> の<sup>り</sup> 下<sup>り</sup> 法<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 半<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 身<sup>り</sup> 力<sup>り</sup> 死

一<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 下<sup>り</sup> 付<sup>り</sup> 事<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 料<sup>り</sup> 限

一<sup>り</sup> 法<sup>り</sup> 道<sup>り</sup> 具<sup>り</sup> 入<sup>り</sup> 御<sup>り</sup> 下<sup>り</sup> 付<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 半<sup>り</sup> 之<sup>り</sup> 身<sup>り</sup> 力<sup>り</sup> 死



料 治子之役

一 櫻前刀採竹本車曲事

右之紙張了あき也仍概連書件

元和九年六月十日

元和九年六月十日

條々

一 柳篇之取之山系青丸宿候

縦篇取取山系同所了あき候事

一 山小性組以死書担大以書担尚書

之取山系取取山系同所了あき候

同所了あき候

了あき候

右之各取 治子之役

元和九年六月十日

是







一 一と二十人組のたゞ孫の草履  
 九才少所入家した右見えり  
 一 歩行しと所入お難し徳を先  
 たる様ししものる料法を及  
 一 歩行しと所入おまとの何  
 しく成りお置はとのる料に所  
 一 姉みする人のさる出して形依  
 為るおのるさる一は 作は但  
 去る走るさくさくお合はてさる  
 一 一は行はれ又ハハのりて事

事

一 馬小當お中事ア内入  
 一 免おのり事  
 一 一組切お番に少附事  
 一 一は借し時おさるも買ら中事  
 一 道中お大使仕事  
 一 一當のしはけは法交し事  
 一 一ははよりお事は法交し事







使令今更年とて一唐一少年は  
世人さくのとて名交の事作身

事

一 以書改信の後、彼江戸カキ書

一 作付くもの事

一 いさゝか編於てしは縦道

一 埋ありとてしやとてしもの

了ら曲事

一 大平、これ外は後出早筆

一 才は之意しとて書るは出十の事

事

一 以書、後之書、此の事は健郎石

一 系しとて於てし、其後易たる

一 毎

一 附書、此は書るは、高書し別

一 一切は書るは、明やらの事

一 佛城、これ何方とて、茶の四角了

一 系是、これ何事とて、一は事



目付し面し行つ系中又他  
以し事於ありけり水曲事  
法立系中又寺に事法是乃  
不物一切付ら交交  
於者ゆし事合由中ら交事  
持湯し規名入つ中ら交交  
法入法し刻形付付法交し合  
あり事ゆしありけり水曲事

系中ゆし事合付ら交事  
法立系中十何之と事振舞  
系中ゆし事  
法中女ゆしゆし一切付ら交交  
大し縁解て事ゆし事名事 下  
出さ也

元和九年六月十日

元和九年六月十日  
法立系中ゆし事法是乃



一 言究は福眼は信じてとて是を遠  
く方々旅をこし、双方は如故に  
之くし、若し令に何様と申す  
とてなる曲事

一 本年、予外、若くは、弟、其、事、に、  
若くは、其、下、人、に、出、る、事、に、  
若くは、其、事、に、人、に、料、  
法、に、及、ぶ、事、に、成、る、事、  
引、之、つ、切、合、信、の、事、若くは、若くは、

一 若くは、其、事、に、人、に、料、  
法、に、及、ぶ、事、に、成、る、事、  
引、之、つ、切、合、信、の、事、若くは、若くは、

一 法、中、に、之、に、及、ぶ、事、に、  
若くは、其、事、に、人、に、料、  
法、に、及、ぶ、事、に、成、る、事、  
引、之、つ、切、合、信、の、事、若くは、若くは、

一 若くは、其、事、に、人、に、料、  
法、に、及、ぶ、事、に、成、る、事、  
引、之、つ、切、合、信、の、事、若くは、若くは、

一 法、中、に、之、に、及、ぶ、事、に、  
若くは、其、事、に、人、に、料、  
法、に、及、ぶ、事、に、成、る、事、  
引、之、つ、切、合、信、の、事、若くは、若くは、

一 若くは、其、事、に、人、に、料、  
法、に、及、ぶ、事、に、成、る、事、  
引、之、つ、切、合、信、の、事、若くは、若くは、







元和九年六月十一日

紀法文不書

一 法 作如以法反書と色り以  
遠宵仕り受事

一 今反以立京中系之形法と辨仕  
り受事

附之未印仕り受事

一 未 故外何方へ存一切系り受  
事

一 考 頭總以并法目付と申と不

入味中少り候と候事ととあり

上之急之候中候少あり候と遠宵  
仕り受事

一 法 以中形候以法反とあり受事

り候と候事と候事仕り受  
事

一 之 故仕り受事







一 五石  
 一 五石  
 一 六石  
 一 六石  
 一 七石  
 一 七石  
 一 八石  
 一 八石  
 一 九石  
 一 十石

但多石少石同名

一 拾六人  
 一 拾七人  
 一 拾八人  
 一 拾九人  
 一 二十人  
 一 廿一人  
 一 廿二人  
 一 廿三人  
 一 廿四人  
 一 廿五人







物集以牙左之趣之事

寛永二五年十二月

寛永之丙寅年六月廿七日

條々

一 今更法信之時所之帳道并町色  
家し深た太と除く一休  
車半

一 宣徳口論大車、主外、少、投、系

一 雖有出、年、青、以、興、以、下、知、を、く  
し、そ、之、身、一、年、一、分、偏、下、人、あ、り  
あ、り、と、一、切、不、々、出、事、

一 今更法信中人、返り、候、合、候、心、し  
候、自然、於、あ、り、知、事、中、者、之、  
還、侍、心、候、了、及、由、信、但、主、料、一  
之、為、者、別、之、旨、申、事、形、人、と、お  
り、一、又、裁、條、事、

一 略、次、半、侍、者、控、し、申、上、り、り、り







右一條、義太有族之種、  
怪事、以或之、其氣流、能或、  
了、如之、之、自然、以、同、付、之、其、  
書、氏、以、法、之、行、人、見、道、中、之、道、  
令、司、務、者、主、科、之、信、之、也、  
料、能、亦、之、知、狀、之、也、見、之、也、

寬永二年六月廿七日

寬永二年六月廿七日

見

一 胎道所浮、乃、事、之、科、注、之、也、  
一 嘔、家、上、福、之、事、亦、之、時、之、下、  
一 知、先、人、之、事、也、  
一 今、之、世、以、信、中、人、也、一、以、信、也、  
一 說、自、然、於、之、事、也、一、信、也、  
一 以後、乃、及、所、信、但、之、事、科、之、也、  
一 各、別、之、事、也、一、也、  
一 壽、年、也、



一 路次中 御着之程一科する  
下りりり以後に御身は遠路  
之半に料程を収

一 御着之程一別者善くおし  
以供する程し少半之事日及  
以目付并善以法を行く  
少半程し仁く善く法成し  
中以降に各令遠省族し事  
曲と又

一 事と一際小の連上り行志し  
る者或人出せり去り入る履  
きく去人好能く本に事若  
量一に連世順遠省し事  
至料程を収

一 騎馬の中 古字習ふ引  
し事同を収

御着之程 石入りりり各別  
し事



一 淨信之的根籍者一守之義  
其氣之入一守之料

但此科之怪言又依之

分限一守之料

一 信守之時一守之料

其守之事過料根之及

一 法道具入交之守一守之料

其亦之代採事曲之及

一 信守者不守一守之料

其守之料

一 路以中於以治所守之料

其守之料

一 信守者不守一守之料

其守之料

之及

其守之料

一 其守之料

其守之料







右聖之被ある所方之也何執  
達如件

寛永六年六月廿七日

寛永之丙寅年六月

詔次中宿御旨以是

- 一人是也
- 一も亦父

但自之新境より人へ交  
るも又なるに自

勤小の沙又なるに  
了之人主の勤小の

又

一 京より付る屋敷へ  
て自之の勤小の事

以て

高月

寛永六年六月廿七日











寛永三丙寅年七月

此在京中下りて以法度

一 宣旨口傳に依りて上差遣有  
候に依りておわく二 双方の  
故自然令何據と云ふは本  
より一 了る曲事也

一 大車之形如く役に出  
るに依りて下人つ如く  
出に依りて人二 料根改  
二 了る曲事也

一 袴湯風呂に入る  
候に依りて人二 了る曲事也

一 法帖有候に依りて  
候に依りて人二 了る曲事也

一 押買狼藉すく  
候に依りて人二 了る曲事也

一 法在京中下人  
候に依りて人二 了る曲事也



一 付主人手形を以て御年  
法城中より以て法度之儀に於て  
此 作出の巻了る事  
右に條に記す事有る事 作出  
也仍し知事  
寛永三年七月

寛永三年

元

一 以入法之儀に於てより法に  
ついで若くは有る事ありし事  
を以て  
一 然るに一月に於ては  
事。但し毎度より法に於て  
を以て  
一 出らるる事より二行に  
事ありし時に於ては  
事ありし事ありし事ありし事







くを取て中半附以て以て  
以て種を以て在りて多し  
院 法名を以て成刻して  
有るを以て以て中半

惣以て書中名書可仕事

報の以て以て以て以て

を以て以て以て以て

を以て以て以て以て

を以て以て以て以て

を以て以て以て以て

を以て以て以て以て

を以て以て以て以て

を以て以て以て以て

寛永之西宮年

元

小指の以て以て以て  
其の以て以て以て



一 今更に其書を信はらむ事  
一 十指人組に其に加ふ所の信に  
去るに充替ふ所の信に  
以事

一 信加ふ所にかゝる所の信に凡  
泊の所其に成所斗ふ事  
を以中し事

一 信を以て信押かゝる所の信に凡  
或人信十人之人を中し事

寛永三兩高事

大納言

一 今夜 津上海道申し泊り  
宿に 酒肴 菓子  
米 大納言 新 何より 信 事

一 大納言様より 信に 酒肴 菓子  
信 事







計所中兼以修乃乃中一あり  
令如身ととるをよむ合志了  
及沙法提不て出合事一

一路法中以泊一石ありく自然  
大車如身一此二兼日記 原由

書之し書よ 兼書書し書  
法殿下了る事とす外に凡書

にありしは書以修以は目付所を  
法指家法定之亦一とにありと  
一切大なりと云々抄集事一

附於 殿中自然 大事會本  
事と法定し事と外に凡  
如言 係出と事と入事出  
書以修以し指家下了る事

事

一 今度法修中人也一 法は  
信也但重科と云ふ為別  
之旨法書以修以し中法と云ふ



法修書も多し... 法目付  
底へ... 法... 難...  
科... 友... 法... 和...  
あり... あり... あり...

法修書... 法... 易...  
法... あり... あり...

法... あり... あり...  
あり... あり... あり...

法... あり... あり...  
あり... あり... あり...  
あり... あり... あり...  
あり... あり... あり...

法... あり... あり...  
あり... あり... あり...











遠より一書は右に示す

一 船の底をせし件たる

一 寺人充殿中にてある法事

一 法道具入交呈の事

さりの事

一 自他の名れ剥事

おしまりありの事

大に示すも世らま也仍執達也

件

寛治十一年

時

一 今う交信より引列する事

一 此牙若ん此後

この曲事

一 急流に流る制禁

一 校し細く

一 及け法若遠

一 理ぬぬ方











一 乾万事不行後一掌一為曲  
事一也

一 水底山坂不為一不憚雜櫻光  
以舟一也紙一少何結去右方  
一魚一但山坂少一山一音一  
一但一魚一不一音一以一  
一但一音一少一及一混一礼一也一  
一猥一之掌一了一為曲事一

一 甲一遺一押一買一英一振一藉一在一之  
一花一之一之信事主人一了為之  
之也

一 猥一不一之代株竹亦事

附一似一也一傷一之一放一在一每一也  
以一之一遠一有一了為曲事

一 地一亦一之信事一有一後一深一學一信一也  
事

一 供一之一也一不一之信事一也一亦一除一除



在古者一信者一之遠中一  
輩一之為之也事

一 凡之在之信者一之也事  
也之小中一之入輩一之也事

附若信之射馬中一之也事

不十之也事一之也事  
也之也事也事也事也事

一 之也信道之也遠中一之也事

是也一之也事

一 信之也事一之也事  
也人元殿中一之也事

一 信道果入文一之也事

一 自然一之也事  
也事也事也事也事也事

一 不知也事一之也事

一 右條一之也事  
也事也事也事也事也事

一 輩於也事一之也事  
也事也事也事也事也事

一 自一之也事  
也事也事也事也事也事

一 怪事也事一之也事  
也事也事也事也事也事



或去つる為る急志也

寛永十一年六月八日

御墨作

寛永十一年七月廿八日

以美

一 乞及去つる所願の如く

侍方之浪人等一々其小守

住不并及を書付一君之

旨に 御出の浪人等

等々 御出の浪人等

小守等何れの中浪人何程

しとの法守に御出の浪人

等々 御出の浪人等

御出の中守也

戊七月廿八日

右方 御上洛之旨に於て

御出

寛永十一年七月廿八日



寛永十一年甲戌年六月八日

降

一 今之及以信一所不之能道并於  
所一色力少一降在子以降之  
令信年事

一 信年事  
知有く一し一之身力一牛年之勿  
漏下人亦不也之不出  
若於遠方之族一之為曲年事

一 法中 法之信一則一  
知有く一し一之身力一牛年之勿  
漏下人亦不也之不出  
若於遠方之族一之為曲年事

一 法之信一則一  
知有く一し一之身力一牛年之勿  
漏下人亦不也之不出  
若於遠方之族一之為曲年事



く候き不及し法信公の御心  
中より了るし法信公の御心  
まへに候き候き候き

る上し候き候き候き候き  
る是即人の中候き候き候き

き人の中候き候き候き候き  
意候き候き候き候き

候き候き候き候き候き候き  
候き候き候き候き候き候き

候き候き候き候き候き候き  
候き候き候き候き候き候き

候き候き候き候き候き候き  
候き候き候き候き候き候き

候き候き候き候き候き候き  
候き候き候き候き候き候き

候き候き候き候き候き候き  
候き候き候き候き候き候き

候き候き候き候き候き候き  
候き候き候き候き候き候き

候き候き候き候き候き候き  
候き候き候き候き候き候き

候き候き候き候き候き候き  
候き候き候き候き候き候き

候き候き候き候き候き候き  
候き候き候き候き候き候き

候き候き候き候き候き候き  
候き候き候き候き候き候き

候き候き候き候き候き候き  
候き候き候き候き候き候き

候き候き候き候き候き候き  
候き候き候き候き候き候き

候き候き候き候き候き候き  
候き候き候き候き候き候き



并ふるふありを懸少くはる事  
一 小石何結ハ右ハ方を懸すく  
但山坂ふハ右ハ方を懸すく山  
の乃ハ附ハ之ハ懸す事

一 法若ハ左ハ時ハ所ハ中ハ之ハ以ハ中  
をぬくハ毎ハ此ハ事

右ハ條ハ相ハ留ハ族ハ於ハ之ハ為  
之料ハ銀ハ子ハ投ハ下ハ也ハ是ハ目ハ付  
しハ之ハ書ハ以ハ直ハ行ハ下ハ出ハ至ハ料ハ候ハ元

道ハ後ハ道ハ於ハ金ハ用ハ持ハ者ハ江ハ流ハ才ハ流

投ハ下ハ出ハ之ハ也

寛文十一年六月八日

法皇御下







三ノ廿一

上覽

三ノ廿二

御能

三ノ廿三

御鷹

憲教類典



朱書

此部中

上後、付与長

作出此書付教少

以名外部中

并 于尔大文網補

入下校以

宝永七庚寅年四月四日

此書院審取

此十姓組審取



布衣望三活没人  
法原 法眼

明五日蹴鞠

上管之身与了女者下管是物由也

作者以四时以常了之也

城旨了与相福也

一衣服厨斗同长袴

三月四日

寛延二己巳年三月十日

信法寺殿法

大目付

山内付

了了中尾

山内中尾

法中尾氏

了了中尾氏



法多氏

布衣笠正徳人

法平法眼醫師

明十言靴鞠

上覽、付与、下球見物与也

作着以、屨斗、目長袴、耳用四寸

着之者也、城名、下与達、以是又

大御所極、大細云極、附、一、面、一、也

尚書局、亦、一、外、一、御本丸、一、長、前、極

了与達、以是

大御所極、大細云極、附、一、法、目、付、也

下有通、也

三月十一日

寛延二己巳年三月十一日

相模守殿、法、後

法、目、付、也

法、目、付、也



蹴鞠日多也  
作竹山面为西礼  
明十三日胎纱十袖麻上下忌用四时  
了有吃  
了中吉

但老中若年寄中上おとしり  
不办也

右へ毎日物へおとしり  
以 大佛所様 大納言様附  
出向付とて一ツ之 西遊也

三月十二日



御能

三ノ廿二

三ノ廿二



元和四年年十月十日

信樂死當年事  
依之是判之書牒  
乃之弱也

信樂中入信樂死當年事  
信樂死當年事知  
信樂死當年事知  
信樂死當年事知  
信樂死當年事知  
信樂死當年事知  
信樂死當年事知  
信樂死當年事知  
信樂死當年事知  
信樂死當年事知



十月十日

伴 右

相 右

安 對

土 大

酒 雅

正保四丁亥年六月九日

申樂大石殘 石分可

殿中於柳園老中

一 孫右田備中書列座傳

上之令く超覺

一 申樂く字子家くく藤少乃廿

一 柳以了右傳事

一 子孫繼く外不似合事一業書可抄寫

古法事

一 系分事一可隨書更く下知若所評一後

於之く古子座く古史を以て人

少く可中書更く但古史非後之古



考又後人述 可中一編事

以上

正德四丁亥年六月九日

覺

- 一 善日正 作止少能了了 古身所ハ 考合
- 一 中合ハ 一 世趣度 振可 作事
- 一 正年正也 作止 為事 不 驕 儉 約 之

用ハ 居作 衣 靴 酒 茶 食物 亦ハ 止 述  
其 列 之 取 合 勿 限 之 意 一 控 可 作  
事

- 一 正 之 意 之 不 知 覺 不 入 或 意 亦 何 是 故 之  
為 作 止 事

附 之 意 之 考 亦 未 及 其 具 之 亦 不 入  
通 具 亦 可 亦 作 事

- 一 古 名 亦 名 止 意 隨 之 錢 操 亦 可 亦 作 法  
事



一 於公家大名之家右伴所可仕  
事一

望

正保四年六月九日

正保四年六月九日

今春在末後代、千龜得為之所  
附子長、不測法、解不偏良

思石山曾向後可お徳、且千之能、  
年如可、字入精可、去之、若身  
以後、於不徳、可、可、曲事、  
上之、一、趣、備、中、傳、

寛文八戊申年一月八日

穠聖法度

一 道中、一、及、具、為、抄、中、召、名、受、文



一 獲多者不可在傍亦似合多一獲  
勤中自教事

一 須細可忘事

一 所能一時勿忘 忘矣方自余謂合之  
仕事

一 物格者之若當不連中自教事

實文八申年五月八日

延享二乙丑年三月廿一日

左近右無殿  
隱岐守殿

大目付

小目付

予之字由莫士容一問此後人可結喜慶一  
遠至在行 諸事即法物即布衣以上  
之步後人明後廿三日舞樂  
上階子付目之物也 作付山宮膳所



山袖麻衣下着 五時迄可也  
城上乃少礼 長巻越う左に  
有越可長巻解

三月廿百

延喜二己丑年 三月廿百

左近將監殿  
隱岐守殿  
出後

大月付

小月付

舞樂見物 本海乃少礼 退物  
伊勢左補 定小可長巻越う  
左近乃西尾 隱岐守 定小可  
長巻解  
有越可長巻解

三月



延享二己丑年三月廿三日

右近抄監殿

由後

隱岐守殿

大目付

由目付

予之家美安宗上同由後人可發在府  
遠毛子行法毒以發物取布衣以  
上之由後人明世四日舞樂長托  
上質在子付深小袖中袴長一五寸許

可之登

揚子為出礼長如越石各

右之越可長如解

三月

延享二己丑年十月

一 明後三日

御本丸出能之身由白剛少之町人  
活見之 仰付以同所、割附人轉



分盤月代仕麻之下見苦發之  
松仕白洲日明ヶ七の申時朝出の所  
去る申より三申申々々後親橋河原通  
よりり定少屋前通より法可申の申  
五申の所より少盤橋少松端の法  
正法可申の申月代事附出此力正  
此申は白洲の入可申の申其法  
成終不仕可申の割附之申人成  
元終入の申其者之申不存申月代事

中々曲事一可申の間月代事入  
念取改可申の白瑞脇道より申り  
御城の事趣申可申事

一 晝代りてとて夜高の朝五の時迄を申  
より三申申々々和倉倉橋の内新馬  
場にお法可申の申四申の申より申り  
和倉倉外少松端にお法可申の申  
衣月の事附出此力正少松端  
白洲の入可申事











寛延二己巳年十一月

与社奉行

来午年三月中親世左更於節遠  
橋亦明地動進能晴天十月五日  
新通古海以周茲与社奉行  
候取白先格者与一由名同遂水  
味可長水弱也

付

寛延三年四月廿百親世大夫勲進能節遠涉門外与具行

与社奉行

御鷹



實永元 甲子年正月廿六日

急矣中入以從相前  
上中以少驚去此  
以不相通以刻不  
何何何何何何何何  
人言并師醫之  
洞中下從相前志  
唐中中中理以  
下下下下下下下下  
下下下下下下下下

永井任濃書尚政  
井上五討既正就  
去井古始既利信



正月廿六日

酒井雅樂忠世

津野越中屋

南部信成屋

依行右京右京屋

岩城甲常治屋

六郷多摩屋

仁賀保多摩屋

酒井宮内大輔屋

平沢右京屋

高尾右京屋

杉平丹後屋

杉平陸奥屋

上杉深山大弼屋

杉平下野屋

菅野氏屋

左田系備前屋







四月十日

酒井雅樂以也

本多此海島也

清和越中書  
南都信濃書  
秋田信濃書  
宮上出羽書  
松平淡路書  
米次中納書

松平龜浮書  
芹野江古書  
左田東備前書  
福原程平書  
赤連川古書  
長年大膳書

古書古書古書  
古書古書古書  
古書古書古書  
古書古書古書



實永三丙寅年

定

一 御案鷹見出—以者—事—其為  
—事—去—石—在—中—御—五人—但—其—の  
—養—年—一—皇—者—を—ゆ—見  
出—以—志—以—少—以—了—其—事—

附新案—又—制—以—其—事—は—其  
—案—を—少—く—以—少—以—一—を—以  
—之—事—

一 御案鷹—案—と—限—一—又—以—を  
—案——内—少—く—鷹—を—盜—以—其—事—  
—其—人—曲—事—た—る—為—一—た—以—以—後  
—日—小—其—事—以—以—其—事—以—不  
—及—所—法—一—類—た—不—了—其—以—死—罪—支

附五人—但—一—宰—令—一—其—事—以—其—事—  
一 御案鷹—を—盜—以—其—事—以—其—事—  
—其—事—以—其—事—以—其—事—以—其—事—  
—其—事—以—其—事—以—其—事—以—其—事—  
—其—事—以—其—事—以—其—事—以—其—事—  
右—其—事—以—其—事—以—其—事—以—其—事—



寛永三丙寅年

右名 山崎守備之礼 小川之 守之礼  
部 一 尾了徳 入

寛永十甲戌年五月十日

名 尾中 入 山崎 守備 上 市 山崎 守  
子 山崎 守 守 毎 少 刻 石 守 何 時  
如 守 守 人 守 守 守 守 守 守 守 守  
山崎 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守

張之 守 守  
守 守 守 守 守 守 守 守 守 守

五月十日

永井信濃守 守  
井上 守 守 守 守 守  
土井大炊 守 守 守  
酒井雅乐 守 守 守

清和 守 守 守  
守 守 守 守 守 守 守 守 守 守



依竹在東京府

岩城在東京府

六ヶ在厚田

仁賀保在厚田

酒井之内在柳屋

戸沢在東京府

多居在東京府

杉平丹後在

杉平陸奥在

上杉屋山古粥屋

杉平下野在

茅野在

左田在

福原在

赤連川在

在

永井在







一 秋中、穀生、いん、そのまゝ、  
 以、名、在、り、成、熟、し、う、り、お、  
 た、い、日、類、と、い、ち、中、の、  
 小、あ、い、い、科、を、ゆ、  
 子、尔、小、あ、い、成、熟、取、り、て、  
 或、ハ、今、限、或、は、子、力、の、田、留、を、  
 了、了、事、  
 右、降、り、了、了、事、  
 此、名、を、也、仍、執、達、  
 如、件、

正保四年十月七日

奉行

右、未、日、御、意、場、を、れ、と、書、添、  
 せ、り、れ、い、初、入、の、御、入、合、

寛文七年丁未年九月廿七日

見

一 今、交、御、意、し、御、意、れ、し、御、意、不、  
 上、御、意、の、御、意、中、子、に、後、を、不、及、



中は援助し解長たりと云え  
右に礼を結しと云取以後堅  
くあり侍山然ん上と云御名見と云  
そ亦誰と云身能と云と祈し礼  
改し時 御長下 此遠礼見と云可  
中山事

一 御長下と云し礼し亦御長下より  
禮より祈し候と云云御事

一 御長下中子と云と於と云と云

非分不令中無其竹木一切代換  
しと云と云と云と祈しと云百姓  
高貴物買及と云と云御事と云と云  
おのろは市町と云高人がと云調  
何事と云と云と云と云遠背と云  
おのろと云と云と云と云と云  
所通と云と云と云と云と云  
曲事と云と云と云と云と云  
付事



一 解居し中子取し時往人を是  
させ下り若事往れ又去まり  
去多ん宗人の如くよりの様子入意  
水届 慥成去を中子に可化向  
後中子に内水届去 願ありし  
去 御遊とこの為曲事 其中子と  
去し 者を中子に由中一様れ  
と願以後 望しつる信山事

附 御居系にれ誰人小後一切

う其あるの下の美を断  
おろし一れ望しつる其用事

一 御居系にれを持欠居仕去り  
去 名交 去配方と中達穿 聲  
し 横仕居し 若 際 立 以 中  
阿下 其れいの 又去 師 通 不 意  
成 中 付 あり 下 為 出 事 支  
一 法 扶 持 人 一 解 居 中 子 亦 と 願 去  
取し 下 村 亦 五 日 下 切 居 一 遍 留 去







加茂 伊織屋  
小野 正三屋  
清水 権助屋  
小栗 庄左衛門屋  
戸田 七郎屋  
久松 左衛門屋  
同官 左衛門屋  
大島 安左衛門屋  
小栗 長左衛門屋  
本村 久左衛門屋  
加茂 牛助屋

享保元 丙申年九月十二日

治部 順  
世田 谷 順  
中野 順  
戸田 順  
平柳 順







申九月

右、古書付、山形、増、之、入、此、  
部、申、之、取、除、也

享保元 丙申年九月廿七日

古、色、見、之、其、の、山、年、之、通、所、  
お、と、り、百、姓、之、一、如、先、規、諸、事、  
了、了、付、山、形、之、取、之、取、觸、之、也

申九月

右、古書付、取、調、山、形、増、之、部、  
之、入、也

享保元 丙申年三月十日

是

一、山、形、居、通、以、之、取、之、者、之、也、  
仕、以、後、之、也、以、之、取、之、也、  
了、了、之、也、以、之、取、之、也、  
除、け、通、也、了、了、之、也、



多引遠の御名馬哉留片附  
下所在の事

一 惣解往年来の若茂世より記所  
片付所在より古存物小正に接し  
下と お心取事

一 牛車大八車は又若附の事并  
未持通の事 有る事 以爲又無  
りし事 其世の中は尤も在る事  
及中留の事

有る越下と相觸の事

享保元丙申年十二月十八日

是

一 御名馬在通の事 昔ハ下  
仕の後茂より柳にお心取  
る事 子由の事 其世より接し  
小陰けの事 下所在の事  
多引遠の御名馬哉留片付  
下所在の事



一 惣解送車に去後世備ふ所を  
去片付て在立は爲す小石は採りて  
少くは木の根事

一 牛車大八車は又荷降はるは  
竹木も持運はる有し分は爲るん  
有りはりし爲る世の中は去運  
去不及留は事

有し趣は 作はる所中一は右觸智  
事

享保元 申年十一月十六日

有しは書付取調の上所解は  
成り得入は

享保元 庚子年十月二日

一 居尾敷中尾敷より尾敷場廣  
成り尾敷より内へ入は爲るは解  
云はるは名は解はるは  
田は入は解はるは事



一 長屋早うハ勿論菜園増々外  
見々々ハありき事取ハ者菜園  
ハ者哉附ハ吾宅ハ概ハ早  
付ハ事

一 居宅接ハ内或者内澄白概ハ者  
堅入ハ早ハ者ハ後ハ早ハ者ハ者  
吾留ハ概ハ早ハ付ハ事

一 解多ハ外ハ者ハ早ハ者ハ者ハ者  
如後或者権威ハ者ハ者ハ者ハ者  
以ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者  
早ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者

但修如者ハ勿論張気ハ者ハ者  
美學ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者

一 万ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者  
以ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者  
西ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者  
有ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者

子十月















白雲可くは夢方は多し人々おと  
了りては因はは夢へ大狐等も  
少くは夢所も不中は積りおと  
はは世殿下等下等

四月

白雲可くは夢方は多し人々おと  
了りては因はは夢へ大狐等も  
少くは夢所も不中は積りおと  
はは世殿下等下等



三ノ廿四

御靈屋

憲教類典



天和元年

山殿有院標上野 而佛殿石燈籠  
軸上之是

一 石燈籠

一 基

一 地盤石字廿七寸長後四尺六寸

一 地盤石上端より寶珠込守り分

右の古書并其祠の上全文了徳入



元禄九丙子年四月

年法之而一日限之覺

廿七日

幸方石以上之諸大名回嫡子

長袴之而丁為余詣事

廿八日

出藩代出詣元奏者番回嫡子

長袴之而丁為余詣事

廿九日

有家庭元番既元其答之旨

役人荒中與荒者自之由長袴

之而丁為余詣事

晦日

有之而丁為余詣事

丁為余詣事

五月

布衣以上之法役人寄令元

朔日

長袴之而丁為余詣事

丁為余詣事

二日

有之而丁為余詣事

丁為余詣事



四日 諸君荒山遊人三日之內中務事  
了乃多諸事

五日 有雨三日之內除帷子事  
務乃勝多諸事乃多諸事

六日 右回所  
右朝六事時八時之內了乃多諸  
事一牽馬車回營廣小路石橋  
亦多押車至下事

以上

元祿九丙子年四月

覺

黑門清水以車板屏風板新清水  
以分内口國持大名方り  
侍四人狭箱持走人原履長走人  
六人四人外了乃多諸事乃多諸事  
此亦又者一切停山他宿坊  
乃多諸事乃多諸事乃多諸事



元禄九子年四月

右一十年付此法事一紙一摺入此紙中  
了去除以

元禄九子年四月

御香奠献上覺

- 一 限三枚
- 一 目五枚

六枚方石以上  
三枚方石以上  
九子石以上

一 同拾枚

拾五方石以上九子石以上

一 同五枚

拾方石以上四子石以上

一 同三枚

五方石以上九子石以上

一 同五枚

五方石以上四子石以上

一 同三枚

三枚方石以上三子石以上

一 同三枚

拾方石以上三子石以上

一 同五枚

五方石以上三子石以上

右一十年付此法事一紙一摺入此紙中  
了去除以



元禄九丙子年四月

号

一 寺方石の上へ而し、寺番奠軸とて、使  
者漆帷子長袴、寺方六肘、四肘と  
し、内二天门通り、寺方越へ、内経堂へ  
て、然る事

一 寺方石の上へ而し、供立  
漆帷子中下、寺方四肘、九肘とて、内  
二天门前大腰掛通り、寺方越へ

本坊へ、了々然る事

一 此外へ而し、供立と漆帷子中下、寺  
方九肘、八肘とて、内二天门前大腰掛  
通り、寺方越へ、本坊へ、了々然る事  
有、通五月九日、了々然る者也

元禄九丙子年四月

有、此書付、此法事、部執上へ、  
認入此紙中、了々然る



元禄九丙子年五月廿

覺

- 一 國持大名 四品 以下一 面一 衣冠 馬
  - 下 龍衣 土 兵 用 八日 五時 前 東 廠 山 口
  - 下 長 祿 系 他 部 屋 住 一 面 一 土 父 不 着
  - 分 斗 一 長 祿 系 事 一
  - 一 勅 額 門 一 内 下 列 居 一 面 一 土 太 刀
  - 一 帶 中 召 聚 事 一
- 新 列 居 對 面 一

- 一 奧 後 尻
  - 一 比 澤 代 尻
  - 一 中 大 名
  - 一 比 法 尻
  - 一 奏 者 普 虎
- 右 衣 冠 馬 一 下 龍 衣 土 廿 日 用 左 刀
- 帶 一 八 日 五 時 前 東 廠 山 口 下 長 祿
- 部 下 右 何 是 七 供 一 若 小 坊 下 長 祿 日
- 新 列 居 對 面 一



- 一 所 御門番 并 火 高 但 高 斗
- 一 諸 役 人
- 一 寺 方 石 等
- 一 寄 合

以上

元禄九年五月廿日

寶永二乙酉年六月十七日

佛宮 御名代 江進表坊之次  
 寺坊之中山坊先 而後 此同付取  
 此例 凡 一 寺 中 以  
 六月十七日

正徳三癸巳年四月二日

天英院極少事 一位極と 寺坊  
 此 一 寺 中 以  
 正徳三巳年四月二日







享保五庚子年七月十日

一 御名代お役唯今迄此十人目付四人  
此役三人に就か 此迄印後此十人目付五人  
此役三人に就か 下中名 稲生次命在幕下  
小笠原平左衛門 此後此

右に長 佐渡し 此留 右に 佐前  
此中付 右に 世に 此留 右に 上  
際此

享保六年丑年四月十日

一 自今以後四月十日 此後代尻 此上  
此上 此 此後代尻 此上 此上  
一 此上 此上 此上 此上 此上 十三回人  
此上 此上 此上 此上 此上 此上  
此上 此上 此上 此上 此上 此上  
此上 此上 此上 此上 此上 此上  
此上 此上 此上 此上 此上 此上  
此上 此上 此上 此上 此上 此上



一 坂下口門外下馬下立立下  
望

享保六年 丑年 五月九日

望

一 東嶽山 塔上寺

紅葉山

右 御佛殿 唱元 御靈屋

一 白堂 御靈屋 唱元

一 左 嶽山

大嶽院標 嶽有院標

紅葉山

文昭院標 有章院標

右 向後 御靈前 唱元

修刻

丑五月九日

享保六年 丑年 六月十九日

戸田山城寺殿後



御靈屋敷上へ出焼籠見

一 与サキ尺

一 惣勝白紙与浪

一 佛紋四角喜紙与切附

一 姉子の分も白紙

一 矢倉甚小以等一 与サキ尺

有し趣切籠焼籠小い一 与サキ尺

件々召中令い去年

大猷院極とす不括上名切天苗年

与サキ尺一 趣一 与サキ尺物更例

年出焼籠焼籠上流心切、付上

一 向とお知い心大く通件々召中令

お極い召是一 大姉り又と結持

と波り後事一 与存名

享保六年六月十日

有るは老中方は作令一 後高

上よりは 修知一 出書付とす不名

存り召名細く上への徳入名



享保九甲辰年正月二日

例年廿日 御靈屋長万石以之

人 御名代 長名也也其向後

御名代也 与家 可相勤也

右也老中 与信後也

元文二丁巳年正月三日

信後寺殿古後

一 淨園院掃 御位牌不矣上付為

何 御機掃明日万石望之而月

書老中 能也与宅也 供也了也

趣 以事

一 在國 在邑 之南 之北 之東 之西

一 湯 諸 寺 家 流 諸 流 出 奏 者 番 并 三

番 氏 美 甚 容 一 同 出 役 人 士

御本丸西丸上平服与万何御機掃







札

有...通可...福...西丸...月...  
可...通...  
九月十日

有...年付...  
丁...  
九月十日

延...元 甲子年 九月廿六日

古...將...  
院...殿

古...月...  
古...月...

古...月...

今...日... 古... 古... 古...

所...出... 古... 古... 古...

所...後...明...古... 古... 古...

所...古...古...古... 古... 古...

所...人...法...古... 古... 古...

所...古...古...古... 古... 古...

所...日...古...古... 古... 古...







御本丸出目付大戸候下旨

二月

延享三丙寅年正月九日

伊勢守殿出後

正月十日 十日十四日

常憲院様 文昭院様 御祥月

御出合出迄旨 御靈屋

御多法旨旨

御廟上旨 御多法旨有旨

向後上 御多法旨旨旨

御多法旨 御廟上旨旨旨旨

御年忌出法事 旨旨旨

御廟上旨旨 御多法旨旨旨

右通上 信若山旨旨旨旨旨

正月



延享三丙寅年正月十一日

伊勢守殿出後

山内付下

深徳院様 御靈前下

上野寺名代

廿四日

老中

正月  
八月  
十一月

上野寺名代

池上寺名代

比側元

十月

延享

延享三丙寅年

寄

毎月

上野寺名代

延享三丙寅年

右に延 向後 了る事 少延

延享三丙寅年五月五日

中務大輔殿出後

大目付下

山内付下



正月 九月 十二月

右自今 十七日 御堂

御堂之治 御堂之治 御堂之治

御堂之治 御堂之治

但只今 八日 十日 御堂

御堂之治 御堂之治 御堂之治

御堂之治 御堂之治

御堂之治 御堂之治 御堂之治

御堂之治 御堂之治 御堂之治

寛延元戊辰年三月廿二日

御堂之治 御堂之治

御堂之治

三月廿二日

御堂之治 御堂之治 御堂之治

御堂之治 御堂之治

御堂之治

御堂之治 御堂之治 御堂之治

御堂之治



公方攝方 御靈前  
御靈前  
御靈前

但御廟前 御方代

右一庭下長以長三石西凡由目付七  
下長七石

寛延元戊辰年三月晦日

加賀守殿下後

三月廿六日

玉心院棟 御靈前

公方攝 御名代 出側

右一庭下長以長三石西凡由目付七

寛延元戊辰年三月晦日

加賀守殿下後



四月付上

玉心院棟

御長宗 六年中

大納言棟上

御名代

廿六日

四月

五月

九月

十二月

但馬守

大納言棟

若年守可

五月

二月

御長宗  
御廟下

御名代

但馬守

盆仲

御長宗

大納言棟

御名代

若年守可

右通 下長宗 下長宗



寬延元戊辰年四月廿日

山月行上

東山寺智増上寺

御系詰書所

還御以後已刻

大御所様

大納言様

御名代

有之例月一

御名代与志願古

流即申 本法以和之縁由

他表向有之縁由 御名代申所

以之縁由 以之縁由 以之縁由

四月

延享四年卯年正月十二日

山月行上

明十七日 紅葉山

御書上

大御所様

御名代老申相勤上

公徳院様

大猷院様

藏者院様



文昭院極

有章院極

御書卷下

大御所極

御名代 大御所

長子院極

二月十日

延享四年卯年 二月十日

伊豫守殿

二月十日

明子守刑部卿 以殿内御所付 伊豫守  
御書 延享四年卯年 二月十日  
伊豫守殿 御書

二月十日

右 御書付 延享四年卯年 二月十日  
七月十日

延享四年卯年 十月廿七日

伊豫守殿 御書



十月十三日

山月行

至心院極

御洋殿地鎮安結回

十四日

御宝塔供養

長袴 至月 寺人 寺 寺 寺 寺

一 布衣以下 寺法公而 寺 寺 寺 寺 寺 寺

寺 寺 寺 寺

實延元 辰年 閏十月 旨

修德寺 殿 寺 殿

山月行

淨園院極 御位牌 祈 寺 寺 寺 寺

淨島院極 淨德院極 至心院極

寺位牌 法談 寺 寺 寺 寺

三御新極 御名代 法談 寺 寺 寺 寺

寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺

寺 寺 寺



實之延 元成 辰年十二月十七日

宮内少輔殿出後

此月付下

十二月八日

東藏山 御位牌所 此上控

此出控

同九日

此伏養

一 御依養 此上控 御名代 此上控

畜養 此上控 御事 此上控 御事 此上控

御事 此上控

宝曆二<sup>壬</sup>申年五月甲

右近将監殿出後

此月付下

上野

常憲院標

御遷 此上控

有德院標



公方標 御名代 老中  
 大納言標 御名代 但馬守  
 御名代 比伊守 老中  
 公方標 御名代 老中  
 大納言標 御名代 但馬守  
 右之趣 下之趣 千之趣

宝曆二年申年五月七日

御名代 老中  
 御名代 但馬守  
 御名代 比伊守 老中  
 御名代 老中  
 御名代 但馬守  
 右之趣 下之趣 千之趣

有德院標 御廟 御拜殿  
 上棟 五月十二日 辰刻  
 回地盤安法 同 巳刻  
 同 御影用眼供養 同十四日 巳刻



常憲院標  
有德院標

御遷座

同此供養

五月十六日卯刻  
午刻

有德院標

御室塔供養

五月十九日巳刻

有通 五月十九日巳刻

分札

此書付今日伯耆守殿  
此書付今日伯耆守殿  
西海山守乃自得耳家  
五月 依田平次郎

移尾平次郎  
約井能也  
依田平次郎  
物部十守

此分札之御書 不在書裁 与長存山官  
五月朔之上 亦除了也

宝曆二壬申年五月十五日

伯耆守殿此後



本多長門守  
神尾若狭守  
駒井能定守  
依田平次守  
新屋十兵衛守

明十百上野

正近座

出供養

公方様 御名代茂但守也如勤年

己卯年五月十五日

五月十五日

宝曆二年甲午五月十五日

伯耆守殿出候

本多長門守  
神尾若狭守  
駒井能定守  
依田平次守  
新屋十兵衛守

御名代茂但守也如勤年  
以付明後十九日甲午准后上  
上使表件



七下相之々以官先格一遜可兵乞  
城

五月十七日

宝曆乙亥年二月廿五日

宮内少捕殿出後

山月付上

紅葉山

藏有院極外近座

二月廿八日 酉刻

右之通々 出山官長故于之任建也  
之向之徒也

二月廿五日

宝曆乙酉子年六月十日

石石以之而一家智之長上令之  
日光 所官上 軸上如之而之也  
印後以右方了代出列苗之山保去



物之了仕は在殿山  
御堂より物之了候に  
多りくは  
右に越下石望し  
下は

六日

右に書付  
徳入了候に

宝曆十三癸未年四月十六日

酒井右衛門尉殿  
御座

一 四月十七日 紅毛

御座 御多之侍  
若雨天多 御多之侍  
御名代 御多之侍  
御多之侍

右に越下石望し  
下は



明和之丙戌年十月十日

一 増上寺

名徳院様 御是屋仮住長初未取  
拂お漸以の身 法住 幸治お成以管世殿  
向しに 了お進名 杉年 右系左史殿と  
修史以長坊 寺之由回到中 石佛様  
少毎を道 了有く山以上

十月十日

大目付

右に大目付 寺進と云ふ 修史く杉年付と云ふ  
今しらの名 寺進と云ふ 修史を立平の御中と云  
入山御中 一ツお除山

明和四丁亥年正月九日

杉年右系左史殿以後

織田對馬守

當分の 修行



前日伊豆也

明十日 东叡山

大猷院梅

御靈茶

岩有院梅

常宝院梅

御靈茶

有德院梅

淨多院梅

御位牌所

玉心院梅

御系詣長遊山

御系乃役了勤山

正月九日

明和四丁亥年 正月十日

杉平右京左史殿中后

正月十七日

紅雲山

御宮

御系詣



御書付没 檄回封了書  
御土差 首回伊豆守  
御酌 堀川左近左補  
御加 大友近江守

右邊中合了 大友勤以 行衣 正高用  
之 後以 山給 信一 没去 帶 銀 手 用 在

御後没

牧野豊三郎  
加納左近守

代り  
田原大和守

右邊中合 信行名 於 芝 落 一 回  
右邊中合 殿 以 出 書 付 一 中 函 一

右邊中合 付 書 一 箇 條 一 在 信 後 一 在  
右邊中合 作 書 一 一 年 付 与 一 年 付 在 官  
右邊中合 上 末 一 一 條 一 一 年 付 在

明和四年三月十日

杉平右近將監殿 以 信 後 以 由 大 井 伊 豫 守



長生

以達一光

奉旨百增寺

懷信院標

御靈前

御墓標

御系 諱身 南月 十三日

法身 諱身 亦成 以名 此殿 而 上 至 寺

相年 亦近 將監 殿 正 修 學 以 依 一 出 進

中山山

三月

右 達 書 亦 長 修 亦 一 亦 年 付 亦 寺

甘 一 亦 名 亦 進 書 一 亦 亦 亦 亦 亦 亦

中 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

明和四丁亥年三月十日

相年 因 防 亦 殿 亦 後

急 滿 院 門 臨 明 亦 日 亦 亦 殿 山

有 德 院 標

御靈 亦 亦 亦 亦 亦



憶信院極 仰靈前  
因寺之儀寺社寺以  
後日付之  
後日

三月十三日

安永元之辰年十月二日

在靈殿山 仰位牌所  
御極端以三石  
御極端以三石

表仲豐後寺定上  
以事

一 在國在色一而  
御極端以三石

一 酒結之字 法  
御極端以三石

年指之為何 御極端  
御極端以三石

一 常一 殿中  
御極端以三石



城下日向御極殿山事

十月

安永六年申年十一月廿三日

大目録

来る年正月廿四日より紅葉止  
御雲屋

大納言梅 御系詣

但 今方極東殿山増上寺

御雲屋 御系詣二回天寺

古史山形寺 廿四日お延

御系詣 御系詣同日

お成山事

一 来酉年正月廿日より東殿山

心親院梅 御雲屋

大納言梅 御系詣有

一 来酉年正月 東殿山



玉心院様  
御雲屋様  
右御言様  
御名代

二月廿六日  
豊後守

御祥月申

御廟跡  
御名代有之

正月廿六日  
西丸右側 瓦

正月廿一日  
回所

十二月廿六日

印後右様  
御名代有之

申十二月

安永五年申年十二月廿八日

四月廿八日

才雨年分様上寺

懐信院様  
御名代有之

右御言様  
御名代

正月十一日  
正月十二日



龜甲

九月十二日

十月十二日

右 御名代 去後 寺 勸 以 而 後  
右 寺 經 管 了 其 故 于 之 以

申 十二日

安永 八 年 二 月 廿 五 日

依 後 寺 殿 出 後

右 月 付

右 月 付

一 紅 葉 山

御 名 外 遷 三 月 六 日 廿 五 日 刻

亦 近 宮 其 為 洲 以 之

御 名 之 事

一 翌 廿 八 日 右 御 名 代 之 上 有 之 以 付

言 之 相 海 以 之 御 名 之 事

右 寺 經 管 了 其 故 于 之 以 西 凡 出 月 付



此後每逢 ありくく

安永八己年十一月十日

石見守殿此後

一 此後日光

御宮 御雲金古河復出車去哲

西近之志 西近座古河復出車去哲

少経候 明後十三日四時 無事候

但曆斗日中を禱り有る事

一 病氣 却少 況居く面く月事

志中 候事 下と名越候事

一 在古 在色く 面く 於方石以上候礼

下く 礼礼 候事

他在國 在色く 婦子 況居く 下

礼礼

有く 通 下と名越候事 西凡 此月付候事

可有 候事



十二月十日

古くは年付五綱の上日乞ふ部  
了銀入

安永八己亥年十二月十日

達江書殿後

山目付

一 例年明後十日紅葉山

御宮書 御買屋 御書指

控取天明後十日と名の延所

御宮 正延 正右所

御全書 御書書 御書指

以名一の取平乞ふ衣而一と書

達

十二月

安永八己亥年十二月十七日



之原氏殿法隆

去月付  
法月付

一 紅毛山

御名 正近宮 身与十二月十八日

申ノ刻より 正近宮 法名

法山と 御清ノ事

一 御名十九日 御名代 言上 并 御代養

ノ付 法山と 法名 御清ノ事 法山と 法名

有ノ事

一 御名法 法名ノ事 御名法

法ノ事

有ノ通下 法名ノ事 西九月十日

法名ノ事

十二月

安永八年十二月十八日



石見守殿出後

山日付下

一 紅筆山

御至 山迄至 其解此付事廿一日  
法事 山日付下 此格合 与山  
御至法 其解此付事  
御至 御至 御至 御至  
御至 御至 御至 御至  
御至 御至 御至 御至  
御至 御至 御至 御至

相勤

右通 山日付下 御至 御至  
山日付下 御至 御至

十二月十八日

安永八己亥年十二月十九日

石見守殿出後

一 此山 紅筆山



御定少飲酒御書

正徳之官 有漸 未廿二日 四所 少信代  
亂之 家 亂 修 台 法 同 婦 子 内 奏  
者 多 同 婦 子 至 台 銀 煎 法 同 婦  
子 法 事 以 法 如 氏 布 衣 以 上 法 修 人  
歷 年 日 中 修 玉 目 宅 城 法 修 後  
下 上 台

但 病 氣 知 少 面 一 月 中 老 中  
定 台 以 供 台 少 後 候 一 中 上 台

一 右 一 通 万 石 以 下 一 面 一 上 是 又 月 當  
一 右 一 中 一 定 台 以 供 台 少 後 候 一 中 上 台  
一 左 國 左 色 一 面 一 以 飛 札 少 後 候 下  
上 台

右 一 通 一 上 是 又 月 當 右 一 中 一 定 台 以 供 台 少 後 候 一 中 上 台  
有 通 一 上 台

十二月















五 彌 了 結 入 下

Handwritten notes in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten notes in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten notes in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten notes in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten notes in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten notes in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten notes in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.







